

宗務所婦人会報

第36号



曹洞宗宮城県宗務所婦人会



令和5年度「移動研修会」(於 気仙沼 補陀寺様)

目 次

「あいさつ」 宗務所婦人会長 森 すみえ… 2	—婦人会活動—
「御 挨 拶」 宗務所長 伊藤 守弘… 3	「奈良・東北のみほとけ展」をみて 圓通院婦人会… 8
「清濁あわせ呑む」 東北管区教化センター統監 高橋 哲秋… 4	「三年ぶりの日帰り研修」 光明寺仏教婦人の会… 9
宮城県宗務所婦人会令和5年度総会…………… 5	「写仏絵・観音様とともに歩む婦人会」 耕田寺婦人会…10・11
宗務所婦人会移動研修会	
「初めて参加して」 松源寺婦人会… 6	東北管区婦人会研修会報告……………12
「震災遺構を見学して意識の再確認」 清水寺仏教婦人会… 7	本部婦人会評議員会……………12
	編集後記……………12

あいさつ

曹洞宗宮城県宗務所婦人会 会長 森

すみえ



この夏は記録的な猛暑が長く続き、いつまで続くのか驚いているうちに、いつのまにか今年もあとわずかとなりました。猛暑にはお身体に不調を感じられた方もおられたのではないかと思います。

新型コロナウイルス感染症がでて四年になります。昨年からは新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言、蔓延防止法等の解除の検討を始め、漸く今年の五月に、流行性感染と同様の五類に移行しました。しかし、まだまだ感染者も多く、いつもより早いインフルエンザと同時流行中で、な

かなかマスクをはずせない状況です。

本会も予防と社会経済活動の両立を図り、東北管区研修会などに参加し、令和五年度の宮城県宗務所婦人会の総会は、人数を制限しそれぞれの会代表者二十余名参加数にて開催いたしました。記念法話は三宅俊乗教化主事様にお願いたしました。

岩手県担当の東北管区研修会も三年ぶりに八月に開催となりましたが、場所は交通の便が良い仙台で、各宗務所五名の参加で三時間の日程で行われました。

本会も制限をしながらの移動研修を検討し、気仙沼方面に決定しました。気仙沼市の東日本大震災遺構・伝承館として後世に伝える旧宮城県気

仙沼向洋高校です。映像シアターでみた、震災一週間後に避難所でもある体育館で行われた中学校の卒業式での答辞は、悲しみを秘めて淡々と読まれ、涙なくしては聞けませんでした。その後「海の市」での自由昼食、大島大橋、奥州観音霊場第三十番札所でもある「補陀寺」さまを参拝・見学し、実りある研修であったと思います。今年は、石巻市の道の駅「上品の郷」で数ヶ寺の婦人会が合流してバスに乗るやり方を取り入れました。

今後の宗務所婦人会の行事はボランティア活動で「絵本をおくる運動」に取り組み、会活動のひとつ「社会奉仕に寄与する」を実行する予定です。宗務所さん、管区センターさん、SV Aの関係者の方々にご指導を賜りながら楽しく仏教婦人会で学んで行きたいと思います。

合掌

曹洞宗婦人会会員の誓い

おしみない心で

どうぞさしあげます

〈布施〉

やさしい笑顔で

どうぞしっかり

〈愛語〉

幸せを祈って

どうぞおさきに

〈利行〉

手をとりあって

どうぞごいっしょに

〈同事〉

私は、今日も菩薩さまの

願いに生きます

御挨拶

曹洞宗宮城県宗務所長 伊藤 守弘



寒雁声々翠微を渡る時節。

宮城県宗務所婦人会の皆様方におかれましては、常々のご信心誠にありがたく、また、菩提寺様と共にご協力をいただいておりますこと、衷心より感謝申し上げます。

さて、今年の夏は長く酷暑が続き、体調の管理も十分とは言えず、涼しくなることを心待ちにしておりましたところ、お彼岸を境に急に朝晩の寒さを感じ、雪の便りも届き始めた昨今、酷暑だった夏を

懐かしく感じております。

そんな中、八月二十九日、東北管区婦人会研修会がホテルモントレ仙台で開催されましたこと、お慶び申し上げます。私は残念ながら不参加でありましたが、講師の大本山總持寺副貫首盛田正孝老師は、「六曜」などの迷信に惑わされず。日常の正しき信仰生活の道を説示いただく等 大変有意義な研修であった旨お聞きを致しました。

本会の会則第一条に「曹洞宗の教えに根ざした信仰生活を確立するとともに、会員相互の連帯を深め、豊かな愛情によって、社会教化に尽力し、もって平和な世界の実現に寄

与することを目的とする。」

とあります。また、「ひろげよう 信じよう 美しい心のふれあい」をスローガンとして、その実践のために「会員の誓い」四攝法（布施 愛語 利行 同事）を掲げ、目標としてご精進いただいております。

令和六年は、太祖瑩山禅師様七百回大遠忌をお迎えします。本年は、その機運を高める為、全国の寺院及び檀信徒が一丸となり、全国で予修法要が修行されて参りました。予修法要の大導師を務められた大本山永平寺の南澤道人禅師様は、ご挨拶の中で「太祖瑩山禅師様の『たとえ難値難遇の事有るとも、必ず和合和睦の思いを生ずべし』と、人々の悲しみも苦悩も我がことのよう受け止め、相和して生

きることをお説きです。さらには自分のためではなく、社会と共に歩み、相手の幸せを自分の喜びとすることが出来るよう努めてまいりました。」と示してくださいました。このことは、会員の誓い、と同じことを意味していると思います。「和合和睦」の思いであります。何と温かい瑩山禅師様のお言葉でありまじょうか。

正しい信仰に生きる婦人会の方々のお力は、「和合和睦」の思いを生み、気軽に相談ができる温かい仲間をつくり、明るい地域社会の輪を築くことと存じます。今後も菩提寺様へのご信心はもとより、宗務所へのお力添えをお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

合掌

清濁あわせ呑む

曹洞宗東北管区教化センター統監 高橋 哲 秋



新型コロナウイルスが二類から五類に移行された令和五年五月以降、多くの制約が緩和され、各地での賑わいも回復傾向にあります。

宮城県宗務所婦人会の皆様におかれましては、コロナ渦下にあつて、いろんな工夫をしながら地道に活動されてきたことに敬意を表します。その活動が今、再び花開き、徐々に顔を合わせ、期会が多くなっていることと拝察致し、心よりお慶び申し上げます。

東北管区婦人会研修会も当初は花巻温泉で一泊二日の予定でしたが、三年間の延期を余儀なくされていました。その間、会場の受け入れ体制の変更など、大人数での研修が困難になつて

なつてきた中、漸く先般八月二十九日、ホテルモントレ仙台にて開催することができました。参加人数を大幅に減少して宿泊無しの開催でしたが、岩手県宗務所婦人会が中心になり、各宗務所婦人会役員皆様の協力によって有意義な研修会となりました。お慶び申し上げます。

五類に移行しマスコミなどの報道も少なくなりましたが、外出や集会が規制されていたこの三年間でいろんな事が変化しました。

医療関係では多くの問題を抱え、私たちも手指消毒やマスク着用など三密を避けるようになりました。

観光地など人が多く集まる場所ではコロナ前の賑わいを取り戻しつつありますが、団体旅行が減って個人や小グループが増加しています。宿泊施設では感染予防の観点から、親密な関係にない者同士を同じ部屋にしない傾向にあります。団体宿泊者

もまた、相部屋を好まなくなっています。お互いのプライバシー部分の思いやることも大切です。宿泊を伴う研修会の持ち方も従来通りとはいかないのかもしれないですね。

テレワーク・在宅勤務やオンライン会議などは、交通費節約などの理由で、現在も重宝されています。事務的な報告や連絡などではそれで充分です。しかし会議などでは、建前や前例が優先し、本音で語り合う機会が失われているように感じています。

集会や催し物への参加意欲も下がったのではないのでしょうか。教化センター主催の禪をきく会は約三年間の録画配信の後、五年四月から仙台市長町の「楽々ホール」で再開しておりますが、コロナ以前より入場者数が減少しています。葬儀などの仏事への参列者も減少傾向にあります。新型コロナウイルスの影響だけではないかもしれません、「無縁社会」を想起してしまいます。出不精は世間を狭くしてしまいます。気力の低下は体力にも影響します。知識や情報の収集は心の糧となり、気力になります。

何歳になつても学びと交流の場が必要だと思ひます。

相変わらず新型コロナウイルスの感染が続いています。五類指定以後に感染率が高くなった地域もあります。蔓延防止のためにワクチン接種が推奨され、六回目の接種を済ませた人も多くいます。

私たちのまわりには人に害を与える動植物がたくさん存在しています。ノロウイルスなどの目に見えない細菌、毒キノコ、毒蜂、蚊、毒蛇など、数えきれません。

ワクチン接種とは、人体の健康への影響を最小限にした病原菌を体内に取り入れて抗体をつくることです。過去にもインフルエンザや天然痘・日本脳炎など多くのワクチンによって救われています。

知識や情報を多く取り入れ、それを破邪顕正する事によって正しい判断行動が得られます。

「清濁併せ呑む」は、心が広く、善でも悪でも分け隔てなく受け入れるという意味で、度量の大きいことのたとえとして使います。

出不精にならず、多くの人のつながりを大切にし、牛が水を飲んで乳を出すが如くに、心の糧を吸収していきましょう。

(岩手県遠應寺住職)

「曹洞宗宮城県宗務所婦人会総会」

日時 令和五年四月二十六日(水)
場所 宮城県宗務所二階

過年度二年間の郵送での書面表決、役員総会を経て四年ぶりの総会が一ヶ寺代表三名、短時間でという制限の中で会員二十二名、ご来賓に伊藤宗務所長様、高橋教化センター統監様、三宅教化主事様をお迎えして総勢二十五名の出席で開催されました。

緊張感の中、議長に選出された清水寺仏教婦人会金澤洋子さんの進行にて議事は執行部の張り切りが伝わったのか満場一致で原案どうり可決・承認していただきました。

総会に続き三宅教化主事様より總持寺の開祖螢山禪師様が令和六年七〇〇回大遠忌とのことで「螢山禪師様のご生涯とみ教え」と題したご法話を拝聴しました。道元禪師様の在家弟子であった祖母、観音信仰が篤い母に育てられ「瞋意（いかり）を発さず自然に慈悲柔和にして今、大善知識と為る。是併せて悲母祈念の力なり」という誓い



の言葉と共に慈悲深い穏やかな方々に変られ、「衆生済度」「女人救済」「檀家を仏のように敬う」という誓願を貫いた生き方をされたそうです。母親の思いは子に伝わると改めて衿を正しました。

昨年十二月に就任された伊藤宗務所所長様の挨拶は、皆さんは婦人会活動を通じて信仰生活を送られているから何も心配ないですがと前置きされ、良寛様に憧れ弟子となった貞心尼様の辞世の句「後は人 先は仏に任せおく おのが心の内は極楽」の歌は『今を生きる』に徹した悟の歌であると教えいただきました。

「おのが心の内は極楽」という風に生きてみたいと心に残りました。

総会開始前に司会の岡崎庶務さんより県婦人会は昨年で設立三十五年になります。宗務所玄関脇のしだれ梅は十周年記念植樹であると当時の記念品、会報、写真と共に紹介され、その他の議事では葦名会計さんよりしだれ梅の剪定等の手入れをしたと報告があり、議長の「梅の花で始まり梅の花で終わったうめえ総会でした」との解任挨拶に和やかな笑顔いっぱい総会となりました。

(報告 二階堂庶務)

Ⅱ 令和五年度主な行事予定 Ⅱ

四月二十六日 総会並びに研修会（於 宗務所）
八月二十九日 東北管区研修会 会場 仙台市内
九月二十六日 移動研修会 気仙沼方面
十二月 一日 会報三十六号発行
令和六年一月二十二日 「絵本を届ける運動」

令和五年度

宗務所婦人会移動研修会

令和五年九月二十七日 気仙沼方面

初めて参加して

松源寺婦人会会長 梅原みち

長い猛暑が落ち着いた雨模様の九月二十七日に初めて研修会に参加した三名と共に仙台駅東口に集合しました。気仙沼震災伝承館に到着した頃には雨も小降りになり早



速見学を始めました。気仙沼震災伝承館は震災遺構として気仙沼向洋高校の旧校舎をそのままの状態で残してあるところだ。

報道番組では見ておりましたが実際に見学して校舎の三階部分に取り残された車を目の当たりにして三・一一の津波の威力に愕然としました。また、伝承館で震災の映像を見て当時を思い出し記憶が蘇ってきました。

昼食は「海の市」で各自好みの食事を堪能した後、大島大橋を眺めながら補陀寺様に向かいました。震災当時はテレビ等の報道で気仙沼湾が火災で真っ赤に燃えていた事を思い出し車窓から見える街並



みは良くぞここまで復興出来たものだと感じるものがありました。

白華山補陀寺様では御本堂で住職様のご挨拶をお聞きし開山堂、位牌堂を拝観させていただきました。位牌堂は荘厳で目を見張りました。境内には樹齢約五百年と言われている樅の木がそびえており、市の天然記念物指定を受けているそうです。巨大な樹木を見上げパワーを頂いてきました。

午後三時過ぎにはバスに乗

り込み、皆さんと打ち解けたところでクイズ大会をして盛り上がった車内でした。幸い菩提寺の松源寺はお寺の損傷も少なく、檀信徒の被災者も居なかったと伺っております。住職は翌年から三・一一を忘れない慰霊法要を続け、今年は沖縄民謡歌手の古謝美佐子さんをお招きして、追悼のコンサートが行われました。

今回初めて参加した婦人会の研修では皆様とのふれあいや学びの多さに感激し、次回がとても楽しみになりました。



震災遺構を見学して意識の再確認

清水寺仏教婦人会 金澤洋子

四年ぶりに宮城県宗務所婦人会の移動研修会が開催され、清水寺では八名が参加しました。ちょっと早起きして清水寺を出発、仙台駅東口、石巻市の「上品の郷」に寄り全員集合です。

体の津波の映像や、その時の記録が残されており当時の恐ろしさが甦ってきて、震災に遭われ犠牲になられた方々に哀悼の意を込めて手を合わせました。

伝承館はもちろんのこと、

行先は地震津波火災の三重の被災地、気仙沼方面。最初の見学場所は気仙沼震災遺構伝承館でした。震災当日まで校舎として利用されていた気仙沼向洋高校旧校舎は、震災の爪痕がそっくりそのまま残されており見るも無残な光景でした。また伝承館では町全

仙台的荒浜小学校、石巻の門脇小学校、大川小学校、坂元の中浜小学校等々震災遺構として残された場所を訪れる機会があればこそ、震災の記憶も甦り防災に対する意識が強くなると思います。日本は様々な災害の多い国です。このよ

を再考させてくれる場所です。これから先もずっと残してほしいですし、私たちも関心を持ち続けなければならないとつくづく感じました。

海の市では各自自由昼食、気仙沼ではやっぱり海鮮丼とおいしくいただき、ゆっくりとお土産の買物を楽しみました。

再びバスに乗り鶴亀大橋の愛称で呼ばれ、青い海に映える白い大型のアーチ橋、とてもきれいでした。

続いて気仙沼駅すぐ北の白^{はっ}華山^{かさんほだじ}補陀寺様を訪れました。山門前の掲示板に「歓迎宮城県宗務所婦人会様」の文字に感動し、ご住職様から奥州第三十番札所であること、境内の巨大なモミの木は樹齢五〇〇年で市の天然記念物であり、



補陀寺様の六角観音堂

全国的にも珍しい六角堂は宮城県の重要文化財に指定されている等々の説明受けました。

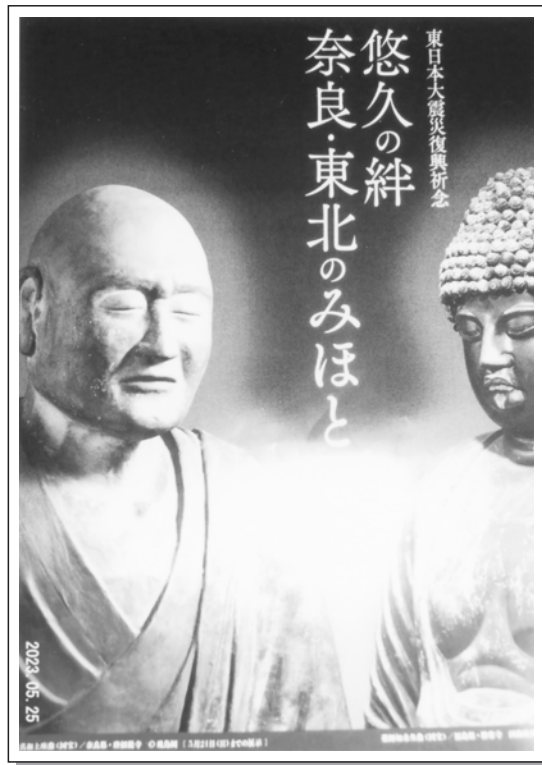
本堂には二十cmほどの東日本大震災で亡くなった人々の供養と、鎮魂のため全国より寄せられた千体の観音像が安置されており圧巻な胸打たれる光景でした。

研修を終えてまた一つ経験がプラスされた有意義な一日でした。

婦人会活動

「奈良・東北のみほとけ展」をみて

圓通院婦人会 瀬戸洋子



東日本大震災の十三回忌にあたる今年、祈念というご縁に奈良県の協力をいただいて多賀城市にある東北歴史博物館を会場に四月五日～六月二十四日まで開催されていました。

「奈良・東北のみほとけ展」を圓通院婦人会では活動の一環として、五月二十四日に見学に行って参りました。コロナ対策が取られた会場には、見学者が後をたらず人気のほどが伺えました。厳かな中に、木彫りの像などその時代の様

子がひしひしと伝わってくるようでした。

奈良と言えば大仏さまです。聖武天皇の発願で「行基」というお坊さんが命を受け、大仏造立に奔走された様子が館内の映写室で放映されていました。偶然にこの「行基」というお坊さんのことが、TVで放映され民衆のため前例を破ってまでも信念を貫いた人物だったということが解りました。遠い奈良の地まで行かなくとも、宮城県でこの様な宝物に出会えたことは、私にとって財産のひとつになりました。

また三重県生まれの歌人、佐々木信綱が詠んだ歌がとても印象的でした。

“ゆく秋の

大和の国の薬師寺の
塔の上なる

ひとひらの雲”



東北の皆さん、宮城の皆さんに勇気を与える仏さまのお姿：奈良県の関係者の方々に心から感謝の念を抱きました。まさに「悠久の絆」大変心が和み静かな貴重な体験の一日に感謝致します。

婦人会活動の有意義な時間の中にお昼にいただいた古代米の「おはぎ」がとってもおいしかったことも忘れられないひとときの思い出でございます。

「三年ぶりの目帰り研修」

光明寺仏教婦人の会

十月二十四日 秋晴れの下
総勢十九名で遠足に行っ
てきました。三年振りの研修で
す。今年のはあの大日本震災
から、十二年経ちました。お

させていただきました。その
間にも次々と大型バスなどが
入って来てお参りが絶えませ
んでした。

亡くなりになられた方々は十
三回忌という節目になります
が、私たちにとっては昨日の
ことのようになかなか区切り
をつけるということにはなり
ません。被災地にも足を運ぶ
ことができずにいましたが、

次に、雄勝の「祈りの丘」
にお参りし、戻りみちに大き
な防潮堤に描かれた大きな三
点の壁画をバスの中から見る
ことができました。そのま

研修旅行を企画した時に役員
の皆様がお花を持ってお参り
に行きましょう。と一致し実
現しました。

はじめに大川小学校へ。献
花台へお花を供えお経を唱え



雄勝から女川への道を、左手
に雄勝の美しい海を見ながら
昼食の場所女川道の駅「ハマ
テラス」へとドライブを楽し
みました。青い空青い海島々
が見え隠れしてとても穏やか
で美しい景色でした。

石巻市内へ戻り門脇小学校
の隣にある西光寺様を参拝寺
族様に被災当時の写真等を見
せていただきお話を伺いまし
た。まだまだ復興途上のように
で家族を亡くされた方々の思
いを託す大仏様の建立を発願
され準備が進んでいるとのこ
とでした。最後に南浜復興記
念へ行き説明を受け津波の脅
威をまざまざと感じさせられ
ました。一瞬にして町がなく
なり人々の生き方がまるで変
わってしまいました。献花台
に花を添え手を合わせてきま
した。



今回は震災の址をめぐる胸
の痛くなるような思いでした
が、私達はこれを教訓に孫子
の代まで伝えていかなければ
ならない、災害は必ずまた起
きると覚悟して、防災減災を
常とし備えが大事なことで痛
感しました。

また来年から他寺院巡りし
たいね。と声が聞こえてきた
ので、楽しみです。

写仏絵・観音様とともに歩む婦人会

耕田寺婦人会 天 尾 さよ子

令和五年十月七日久しぶり

に、「四海縁 王一夫師」による『写仏絵』の講習に参加

しました。私に至っては何年か前に婦人会で本山へ納経した写経以来、久々の「筆」を持つての写仏絵挑戦です。

講師の水墨画の王師は、宮城・山形・福島等に教室を持ち、耕田寺の書院の襖絵や十三佛、本堂の天井絵等を描いて下さっている方です。常日頃、王先生と住職御夫妻のご友人ということもあり、私達も親しくお呼びしていて、講

習会ははじめのご挨拶でも、皆和やかな様子で講習を開始しました。

まず王師より基本的な四種類の線の書き方を教わり、お手本の観音様をよく見て、線種を一つ一つ調べて番号をお手本に記入しました。思わずみんな真剣に、絵とお手本の線種と見比べて解らないところは質問するという熱心さでした。

王師が『先ずは実践してみましょう！』と言われてコピー用紙を重ねて書き始めました。

私は観音菩薩様のお顔を見て、お手本の線種と見比べて描くのですが、なかなか思うような線が描けません。見回すと皆さんも、同様に、下絵をなぞり始めましたが、筆を持つ手が震えて上手くなぞれなくて、線が太くなったり、細くなったり四苦八苦しながら、やっと、一枚仕上げたようです。

『一息ついたら本番ですよ』と言う王師の声とともに、今度は、和紙を下絵にのせると『ゆっくり、ゆっくり、心を静めて、心で念じ、無心になり、観音菩薩様と向き合ひましょう』と言われ、各々書き始め、静かな時が流れ、集中して描き上げました。

一枚目と二枚目と比べてみ



出来たよ！私の観音様、似てる？！

ると、観音菩薩様のお顔が柔らかい優しいお顔になっていることにびっくりしました。

二時間という短い時間でしたが、描きあげた時の心が、すがすがしさを感じました。

途中檀務を終えて帰ってきただ住職さんも王師のすすめで参加して、本番の私たちと一緒に描き始めました。常に筆



住職さんもやってみて！

を持っていますので早いですね。ほぼ一緒に仕上がりました。久しぶりの講師や住職さんを交えての和やかな笑顔での茶話会は、先日の県婦人会気仙沼視察の土産の菓子や会員手作りの漬物と、皆で囲むお弁当もひとさらいおいしく感じました。

いつもならそのまま散会するのですが、そのすがすがしい心のまま、着替えて、午後、婦人会活動に恩ある元役員さんの葬儀に参列しました。

何年前になるでしょうか？

檀信徒総会の参加者に県婦人会でマイ箸袋を各寺院で製作した時も、梅花講の方々や、婦人会が檀務の有る無しにかかわらずに、予定通り活動できるようと、若いときに大工さんをして腕を活かして、寺族さんや山内女性スタッフとともに離れの建物を改装して下さって、いつも男手が必要なときに応援して下さいました男性梅花講員さんの葬儀だったのです。

私達婦人会がこうやって活



婦人会も着がえて梅花を唱えて送ります

動出来るようになるまで住職さん、護持会の沢山の旧役員さんの理解と協力があり、婦人会皆で学ぶ機会をえることができています。そのご恩返しに奉仕活動で実践しています。今日描いた観音菩薩様のすがすがしい思いと優しさを胸に今後の活動に活かしていきたいと思います。 合掌

宗務所婦人会報10号より

宗務所へ記念植樹

去る六月九日、小雨降る中所長さん立合いのもと高橋前会長、石田会長、大友庶務が宗務所玄関脇に「しだれ桜」富士ばんとも呼称されている珍しい梅の木を記念植樹いたしました。

宗務所婦人会創立十周年を記念しての植樹で、宗務所を訪れる人々に美しい花をみせてくれることと思います。

尚、この度の記念植樹につきまして泉区松森の竜門院（造園業）様には一方ならぬ御協力を賜りましたこと御礼申し上げます。



＜記念植樹の前で＞
平成9年6月9日 宮城県宗務所前

※ 令和五年五月に伸びた枝の剪定周囲の樹の整備をしました。来年の春が楽しみです。

評議員報告

東北管区婦人会研修会

令和五年八月二十七日、「東北管区婦人会研修会」が開催されました。

本来であれば岩手を会場に一泊研修会の運びですが、コロナ禍を経て四年、コロナの分類が引き下げられたとはいえ様々な懸念から、今回は集合し易い仙台を会場として、人数制限をもうけた上で午後から一コマ研修をするという事になりました。

各県から五名(当番県と次期当番県は十名)、来賓含め八十名規模で「ホテルモントレ仙台」で行われました。当婦人会からは、評議員二名、副会長二名、会計一名そして教化主事様の六名が参加しました。

講師と演題は次の通りでした。

講師 正法寺堂長

大本山總持寺副貫主

盛田 正孝 師

演題 「世の中はあなたしだい」

次期当番は山形第一宗務所婦人会

日時 令和六年八月二十九日(木)

会場 天童温泉 たきの湯ホテル

募集人数 宮城は二十名

詳細決定しだいご案内します。

本部婦人会評議員会

令和五年十一月八日～九日

曹洞宗檀信徒会館「桜の間」に於いて、令和五年度曹洞宗婦人会中央研修会が開催され評議員二人が参加して参りました。

婦人会のホームページの必要性は総会時に会員減の現状を打開するためのアピールの一つとして不可欠だろうという意見を受け、早速の対応でありました。

「婦人会」という名称についても賛否意見が出ましたが、二年後の創立五十周年に向けて検討する。

二日目に全国曹洞宗青年会(全曹青)会長の講演を頂戴しました。創立五十周年を迎えた全曹青のあゆみのスライドが流れて、震災時、當行寺に泥かきに足を運んで下さった方々、「傾聴活動」や、「喫茶去」を設けたり、通い続けて下さった事を思い出し、感謝の気持ちで一杯になりました。



當行寺ハチ鳥婦人会・作

編集後記

四年ぶりに対面での婦人会総会ができ、「東北管区研修会」も人数制限をして日帰りながら開催され、何と云っても十三回忌の年に、被災地気仙沼を訪れる研修会が出来ました。防災を再認識する大切さを学びました。

まだまだ制限がありますが、各婦人会活動も報告されて素直に嬉しいことです。

時代の流れに添って本部婦人会では、ホームページ開設準備を始めたこと、婦人会という名称を男女隔てない言葉へと模索中とのこと、SDGsの時代ですね。

一月に「絵本を届ける運動」としてボランティア活動で皆さまと笑顔でお会いできますこと楽しみにしております。

(編集担当 二階堂とも子)

発行

曹洞宗宮城県宗務所婦人会

〒九八一-三一一七

仙台市泉区市名坂字

電話 〇二二-二一八-三八〇一

〇二二-二一八-三三八〇一

曹洞宗宮城県宗務所内